

平成29年度日本地すべり学会賞受賞者紹介

【技術報告賞】山邊康晴氏（株式会社 興和）

●受賞技術報告：芋川流域における地震地すべりによる地形変化の実態
（第53巻5号に掲載）

●著者：山邊康晴・網木亮介・丸井英明・井藤嘉教

●受賞理由

本技術報告は、2004年新潟県中越地震時に同県の芋川流域で大変位（滑落）した地すべりブロックを対象として、その地形・地質学的特徴を明らかにしています。類似した解析事例は従前よりいくつも報告されておりますが、本技術報告はそれらの既往研究と次の点において異なります。①大変位した地すべりブロックは、地震後の3つの地形量（斜面の高さ、水平長、斜面傾斜）と地震前のこれら3つの地形量との間に強い相関（相関係数：0.81以上）を示すこと、②地すべりの層厚や地すべりダムの高さは地震発生前の斜面の高さ、斜面水平長によって説明できる（相関係数0.70以上）こと等が具体的に、定量的かつ明確に述べられています。本技術報告によって明らかとなった地震前後の地形量変化に基づく関係式は、地震動に関わる種々の数値解析と組み合わせることにより、地震前の地形量から地震時に大変位を生じる可能性のある斜面を予測する基礎資料となり、今後の地すべり研究に与える影響は大きいと考えられます。

以上より、本技術報告は地震時に大変位を生じる斜面の予測に資する貴重な情報を提供しており、学術的にも技術的にも有意義な知見を有しています。よって、本技術報告を技術報告賞に相応しいと評価いたしました。

● 略 歴 ●

- 1984年 東海大学海洋学部卒、
同年株式会社 興和
調査部 入社
- 2000年 一般財団法人砂防・地すべり技術
センター 斜面保全部（派遣）
参事
- 2008年 株式会社 興和 調査部
現在に至る
技術士（総合技術監理・応用理学）



【査読者賞】守隨治雄氏

●受賞理由

守隨治雄氏は、地質学・鉱物学に基礎を置きつつ土砂災害全般にわたる広範な見識と現地調査・観測、対策技術に関する十分な経験と実績を有しておられます。とりわけ地すべりの発生と密接に関係する斜面地盤の地質学的・鉱物学的研究の第一人者であり、日本地すべり学会における活躍は多くの会員の知るところです。日本地すべり学会誌の査読業務においても長期にわたって貢献されています。とくにすべり面を構成する粘土鉱物、地すべりと地質構造・岩相との関係性、さらには地形改変・人工地盤に関連した地すべりに主眼をおく投稿原稿の査読を数多く引き受けてこられました。査読にあたっては、研究の創造性・独創性、論理性についての確に評価し、有益な修正意見によって価値を高められた原稿は枚挙に暇がありません。査読期間を厳守することで、著者と編集委員からの信頼も厚く、学会誌の質と信頼性双方の向上に大きく貢献されています。

守隨氏の公平かつ厳正な査読は本誌の学術的価値向上に大きく貢献しており、査読者賞に相応しいと評価いたしました。

● 略 歴 ●

- 1979年3月 筑波大学第一学群 卒業
- 1979年4月 応用地質調査事務所 入社
- 1981年2月 日本工営株式会社 入社
- 1999年1月 京都大学博士（理学）
- 2000年8月 地すべり学会賞研究奨励賞
- 2010年5月 同社 四国支店 支店長
- 2012年7月 同社 国内事業本部
事業企画室 室長
- 2016年4月 同社 国内事業本部 技師長
- 2017年4月 伸栄開発株式会社 顧問

